

衆議院の選挙予測は自公 181 議席で野党との連立政権が必要

2024年10月23日

社会资本研究所

南 洋史郎

当研究所の選挙予測では自公 181 議席と過半数を大きく割り込む結果となった

当研究所は、北海道から九州までの全国 11 地域ブロック毎の小選挙区と比例区にわけた各区全ての立候補者毎の勝敗を独自の視点で予測集計をおこなった。その集計された数字の詳細な結果は、図表にまとめたので参考頂ければと思うが、簡単に要約すると次の通りである。

- (1) 自民党は 165 議席で 93 議席減、公明党は 16 議席で 16 議席減となり、石破政権の衆議院解散で自公 181 議席の予測となる。過半数の 233 議席には 52 議席不足するので、この予測通りとなれば、保守中道の他の野党と連立を組まざるを得ない状況となる。
- (2) 自民党の連立パートナーとして考えられる保守中道の国民民主党は 24 議席増の 31 議席、日本維新の会は 20 議席増の 64 議席となる。自民党を非公認となった議員や保守寄りの議員の多い無所属の当選者が 16 議席となっている。無所属の議員の 16 議席を全て加えても、47 議席のため国民民主党だけでは過半数はとどかない。日本維新の会なら過半数は届くが、わずか 12 議席しか猶予が無い。
- (3) 新興保守政党の参政党が 25 議席、日本保守党が 12 議席を確保できる予想となっている。日本維新の会との連立が難しくても、国民民主党と参政党、さらに日本保守党と連立を組むことができれば、過半数を維持することは可能となる。

選挙予測の前提条件に影響を与えた従来とは異なる 3 つの有権者の大きな意識変化

なお、予測のための仮説シナリオは、独自の前提条件で 465 か所の選挙人名簿から勝敗を判定、各勝敗結果と候補者、政党名、接戦が見込まれる候補者名まで詳細に分析した。その結果は有料（5百円）になって恐縮だが、末尾記載のノート記事のサイトへアクセス、閲覧いただければ、議席獲得が予測される 465 人の氏名全てが記載されたエクセル原データや追加の分析記事を掲載したので、残りわずかな選挙戦略の立案や選挙報道のデータソースとしてご活用いただければ幸いである。

さて、今回の選挙予測において、従来と大きく異なる有権者の意識変化は次の 3 つにまとめることができると言える。

〔変化 1〕従来の有権者は、立候補者の経歴をネットで検索、学歴や経験、政治キャリアをみて、この人なら難しい政策を理解し、霞が関、永田町の高学歴な官僚を動かし、豊富な政治経験

から我々国民のために動いて、一所懸命に政治を頑張ってくれると期待して投票先を決めてきた。その面では自民党は高学歴で政治経験が豊富な人材の宝庫に見えるが、岸田政権の3年間、さらに今回の総裁選で誕生した石破政権の自民党をみると高学歴、華麗な政治経験が政治家を選ぶ判断材料として意味がないと自覚するようになってきた。候補者を選ぶときは何より自分たち有権者を裏切らず誠実に政治に取り組めそうな政党を選択する傾向が以前より強まっている。そうなると新興の参政党や日本保守党のような政党でも、党首や党が訴える内容が良ければ、各候補者は頼りなくとも、その政党や候補への投票に抵抗が少なくなってきた。逆に言えば、既存政党、特に与党で信頼を失い続ける政治をおこなえば、票が大きく動く傾向が以前よりさらに顕著になってきている。

〔変化2〕様々な政策に対する各候補の意見がネットで簡単に検索できるようになって、投票前にそうした質問回答を閲覧して投票する有権者も増えている。その回答の仕方やコメントで候補者の性格や能力まで推し量ろうとする有権者もいて、候補者の知名度が無い場合は、ネットに掲載する候補者の意見やコメントが非常に重要となっている。逆に言えば、無名な候補者の場合、ネットで自分が何者かをアピールできない場合、こうした感性すらない候補として泡沫(ほうまつ)扱いとなる傾向が強まっている。

〔変化3〕ネットの有名動画でいろいろな意見や生活紹介など有権者へ露出が高い候補者の場合、有権者へのアピール力も高まるが、一方で誹謗中傷などのアンチコメントも増え、さらに評論家などからもバッシングを受けるケースも増えている。今回、総裁選の決選投票で高市候補を推薦、選択した自民党議員のリストがネット上で公開され、逆に石破首相を推薦、選択した議員名も公表されている。保守岩盤層の有権者が、こうしたリストから投票行動を決めるのも考えられるので、ネット情報への対応が以前よりさらに重要となっている。今回の集計予測でも、高市候補への投票リストや石破総裁の推薦リストを取得、その情報も加味した分析をおこなった。

以上の変化予測を踏まえ、詳細な集計分析内容と追加記事については、ノートの次のアドレスへアクセスいただければ幸いである。

〔アクセス先〕 https://note.com/minami_yoshiro

以 上

第50回 衆議院選挙 小選挙区・比例区別の各党の議員獲得予測								
政党区分	政党・会派の名前	略称	第50回 衆院選挙 党会派の 議員数予測	第50回 衆院選挙 小選挙区 議員数予測	第50回 衆院選挙 比例ブロック 議員数予測	10月直近 の衆院院 党会派の 議員数	第49回 衆院選挙 党会派の 議員数	衆院選挙 党会派の 議員数の 増減予測
与党	自由民主党	自民	165	122	43	258	261	▲93
	公明党	公明	16	5	11	32	32	▲16
与党 合計			181	127	54	290	293	▲109
野党（保守中道）	国民民主党	国民	31	15	16	7	11	24
	日本維新の会	維新	64	37	27	44	41	20
	参政党	参政	25	10	15	—	—	25
	日本保守党	保守	12	1	11	—	—	12
	無所属（有志の会含む）	無所	16	16	0	12	10	4
保守中道系野党 合計			148	79	69	63	62	85
野党（リベラル）	立憲民主党	立憲	110	81	29	99	96	11
	れいわ新選組	れ新	17	2	15	3	3	14
	日本共産党	共産	9	0	9	10	10	▲1
	社民党	社民	0	0	0	0	1	0
リベラル系野党 合計			136	83	53	112	110	24
衆議院議員 合計			465	289	176	465	465	0

以上

〔注〕本記事の著作権は非営利運営の(社)社会資本研究所に帰属します。 本記事の引用、転載、転記などは自由にご利用いただいて大丈夫です。 複写は、本データのままであれば、大丈夫ですが、別データなどへ加工しての複写はご遠慮願います。